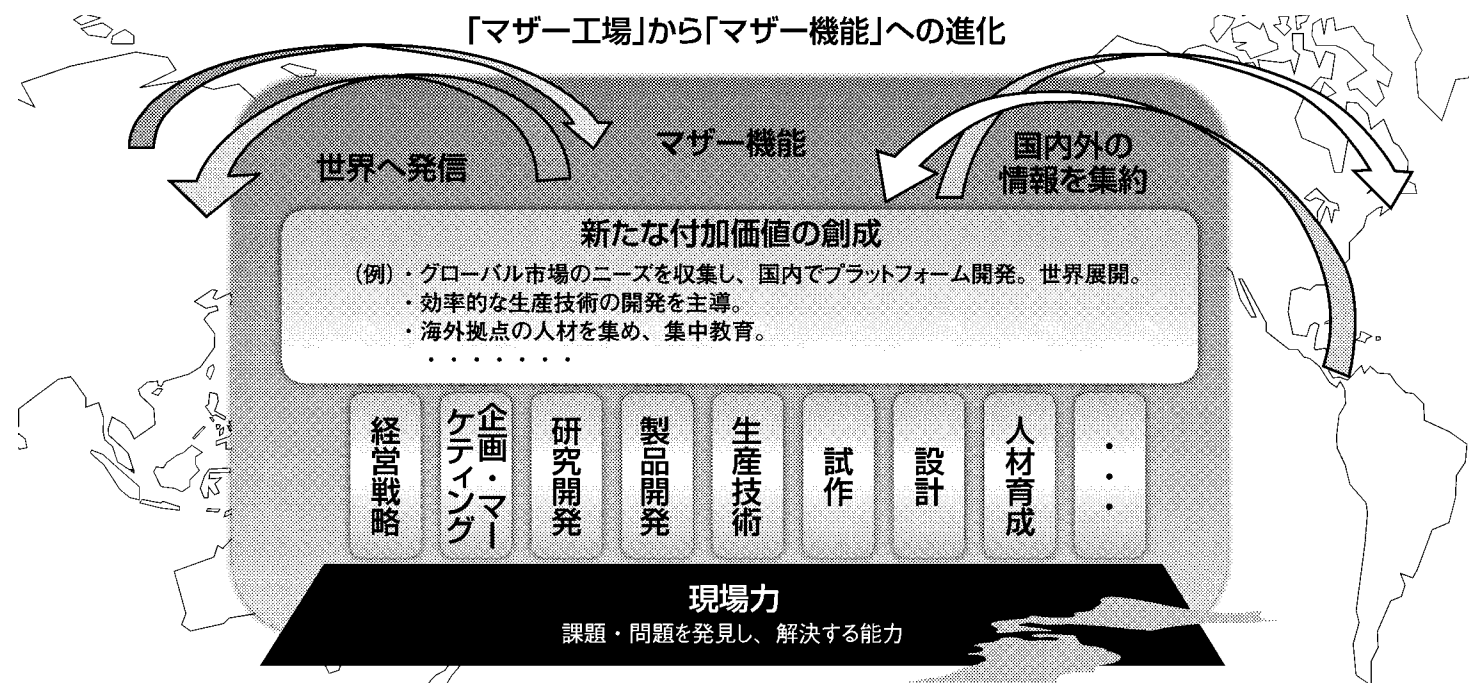


■ 人材育成 ■



出典：経済産業省「2012年版ものづくり白書」

技術立国ニッポン 輝き続けるために

現場力が、モノづくり産業の将来戦略をも左右する一方で、気になるデータもある。労働政策研究・研修機構が11年に実施した調査では、大企業の5割、中小企業では6割以上の企業が「モノづくり現場の中核人材の不足」を実感している。同時に約8割の企業が人材育成は「企業の責任で進め現場で実践する」意向を示す。

継承

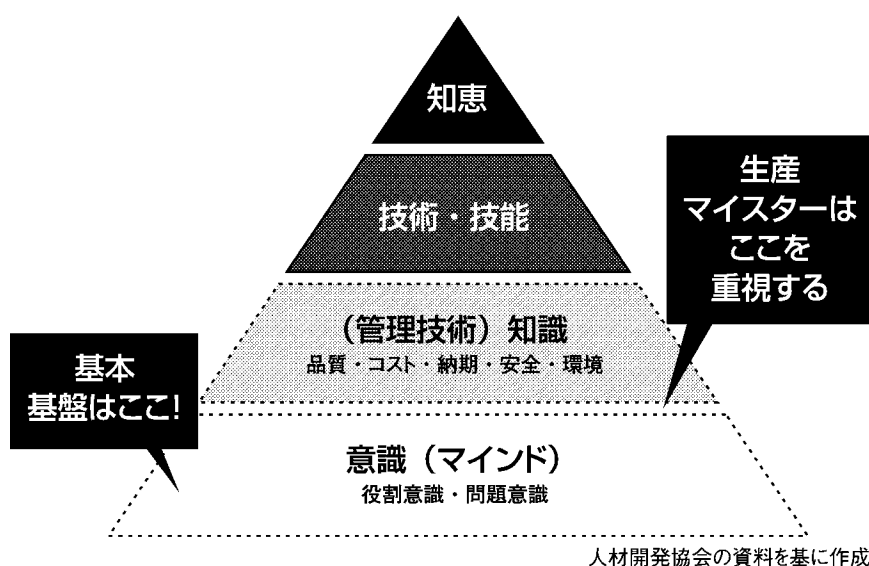
日本が将来にわたりモノづくり技術で世界に打ち勝つには、企業や人に蓄積された技術や技能、知恵を着実に次の世代に継承することが必要となる。だが現実にはこうした取り組みを進める人的余裕や経営資源が不足しているのが実情だ。高度な仕事の増加で特定の熟練技術者への依存や付加が高まり、若手の育成が困難となっている現実を語る関係者や自律的に考え、改善を繰り返す生産現場の固有のメンタリティーそのものが薄れているとの指摘もある。政府もモノづくり人材の育成を支援、促進する

政府も支援施策

施策を打ち出している。公共職業能力開発施設による職業訓練やキャリア形成のための公的助成措置はそのひとつ。129職種に上る技能の能力検定制度もある。民間主導の新たな取り組みもスタートした。一般社団法人人材開発協会（東京都港区）が実施、12年10月にスタートしたこの制度、モノづくり

民間主導で新たな取り組み

生産マイスター検定が目指すもの



生産マイスター検定 体系的な学びの機会提供

現場の中核を担う人材の育成を目的に、管理者、第一線監督者、グループリーダー、若手の4層を対象に品質やコスト、安全といった実務知識や、それぞれの層に応じた改善、改革への役割認識や実行力を客観的に評価する。受検には、公式認定通信教育講座を修了することが必要で、チームごとに体系的に学び自らの知識を整理したうえで検定に臨んでもらう。グローバル生産時代に対応した新たな中核人材の育成プログラムとして開発されたこの制度、人材開発協会の藤川博之専務理事が強調するのは「検定合格がゴールではない。点検、合格後も継続学習と現場での活用を促す仕組みにより学びと教えるが循環する好循環を促進、体系的な学びの機会を提供する。かつて、日本のモノづくりの現場にはOサークルに代表される相互学習や人材育成の土壌があった。生産マイスター検定の裏には、学びの機会や体系的に人を育てる場を復活させたいとの思いが込められている。「技術立国ニッポン」が輝きを放ち続けられるかどうかが、現場の活性化にかかっている。次回の生産マイスター検定は13年7月に実施される。

日本の産業競争力の源泉である強いモノづくり。それは現場を担うモノづくり人材によって下支えされてきた。生産に直接に携わる技術者や熟練技能者だけではない。生産管理や品質、原価管理、設備保全から安全衛生に至る幅広い分野に関わるすべての人が力を発揮するとともに日々、現場革新に取り組むことで、世界最先端のモノづくりが実現されてきた。東日本大震災からの早期復旧をも可能にした「現場力」。その優位性をいまいちど、見つめ直す機運が高まっている。経営環境の変化に合わせ、現場力を再び鍛え上げ、日本の屋台骨を再構築する取り組みである。



中小企業にとっても人材育成は大きな課題

「現場力」を鍛え直せ！

生産現場を支える、モノづくり人材育成の重要性が叫ばれる背景には、日本企業を取り巻く国内の環境変化がある。新興国の台頭でグローバル競争は激化。国内に目を転じれば少子高齢化に伴い市場は縮小。デフレは慢性化し原材料価格は高止まりする。加えて団塊世代の大量退職や終身雇用の正社員を前提とした日本型雇用システムの崩壊など、企業はめまぐるしい環境変化に直面している。とりわけ、雇用の構造変化や技術革新スピードの短縮化は、高しめられる」と警鐘を鳴らす。

「ものづくり中核人材」とは何か。定義はさまざまだが、ラインの監督やグループの指導を担う製造現場のリーダー的存在や、複数の工程を担当できる人材、自律的に生産管理や保全改善を行う能力を備えた人材といったところが一般的だ。

警鐘

政府の2012年ものづくり白書も「ものづくり中核人材の育成を中心

モノづくり人材育成の課題などをテーマにした日機連のシンポジウム(2月1日)



新興国の台頭により国際分業が加速するなか白書は、今後の国内生産拠点の位置づけについても提言。海外市場ニーズなどの情報を組み合わせた付加価値を高め、国内に留め、さらには世界に製品を供給する司令塔機能を提供する必要があると指摘。国内拠点が司令塔機能

復権モノづくり

点の位置づけについても提言。海外市場ニーズなどの情報を組み合わせた付加価値を高め、国内に留め、さらには世界に製品を供給する司令塔機能を提供する必要があると指摘。国内拠点が司令塔機能

ものづくりのプロをめざす新検定スタート！

生産マイスター® 検定

《第3回》
2013年
7月21日(日)1級、2級、3級、
ベーシック級申込み期間
5月10日(金)
～
6月18日(火)

生産マイスター検定は、新人・若手から管理・監督者まで、ものづくり現場で活躍するすべての人を対象に、生産活動に必要なトータルな知識・能力水準を客観的に把握する新しい検定です。



(生産マイスター検定シンボルマーク)

試験会場 仙台 東京 名古屋 大阪 広島 福岡**受検資格** ベーシック級：どなたでも受検できます

1級～3級：公式認定通信教育コースの修了者

受検要領 一般社団法人 人材開発協会のホームページをご覧ください<http://www.hrda.or.jp>

級	出題レベル	受検対象層
1級	マネジメント・マインド 工場管理に関する専門的能力を身につけ、計画の立案から総合的な管理業務および革新を遂行できる。	工場の課長・部長などの管理者層
2級	システム・マインド 生産・製造に関する専門的な知識を身につけ、部下指導ができ「システム・マインド」による業務遂行ができる。	班長・工長・係長などの第一線監督者
3級	スタンダード・マインド 生産に従事するために必須の基礎知識や技能を身につけ、生産基準を守り、かつ、向上することができる。	小集団活動などのグループリーダー層
ベーシック級	ベーシック(ロス)・マインド 企業の生産活動と自分の仕事との関連を理解でき、身のまわりのロス(ムダ)を認識し、改善していく着眼点をもつことができる。	入社3年までの生産・製造担当者、メーカーへの就職をめざす学生など

すでに500社を超える
企業で学習がスタート！

すでに500社以上の企業で、7月の検定に向けた学習がスタートしています。社内での検定(団体受検)も可能ですので、お気軽にお問合せください。

さまざまな場面でご利用
いただけます！

- 昇進・昇格時の教育に
- 若手・リーダー社員の再教育に
- 幹部候補教育に
- 学習する組織の風土づくりに
- 知識・能力評価の一環に

生産マイスター検定
公式認定通信教育

生産マイスターコース

しっかりとした教育が現場力向上のカギとなる

毎月
開講！

生産マイスター1級コース 受講料 25,200円
生産マイスター2級コース 受講料 23,100円
生産マイスター3級コース 受講料 21,000円
生産マイスターベーシック級コース 受講料 14,700円

※「生産マイスター検定」の受検には、人材開発協会公式認定通信教育コースの該当級修了が要件となります(ベーシック級はどなたでも受検いただけます)。
※企業・団体での申込みの場合は、特別価格がございます。

通信教育の執筆講師陣による
スクーリング研修もご用意しています。

導入企業の声

「まず新人と若手に受講させて、共通言語をもてるように育成しています。」

(社員数約600名、粘着テープ専門メーカーT社様)

「昇格要件として導入し、社員全体の技術やスキルの底上げを図っています。」

(社員数約110名、医療器具メーカーF社様)

受講者の声

「生産工程全体の流れをあらためて確認できました。」

(3級コース受講、入社7年目、班長Tさん、男性)

「品質管理においてデータをどのようにまとめ、いかに現場で伝えたらよいかを学べました。」

(3級コース受講、品質管理チームリーダー、Sさん、女性)

検定に関する
お問合せ **生産マイスター検定**
TEL:03-6910-2015(受付時間9～17時 土日・祝除く)

検索

<http://www.hrda.or.jp>人材開発協会ホームページ
HRDA 一般社団法人 人材開発協会通信教育・研修に
関するお問合せ**JMAM 生産マイスターシリーズ**

検索

<http://www.jmam.co.jp>**JMAM**

日本能率協会マネジメントセンター